

第5回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○3月18日検討会の開催結果

・実施概要

日時：3月18日 18時30分～20時30分

会場：オンライン

人数：12人

ゲストスピーカー：みやうち地域包括支援
センター 佐藤様

第5回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○みやうち地域包括支援センター活動紹介

・地域包括支援センターは、市内に49か所、区内に6か所あり、1か所あたり5、6名、保健師、看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員（主任ケアマネージャー）、それぞれの資格を持つ地域支援強化要員という専門職が配置されている。

・各専門職が業務を行っており、大きく分けると、総合相談・支援事業（市の委託を受けて行う相談業務）、介護予防指定事業の指定を受けて行う要支援1、2の方のケアプランの作成業務の2枚看板で行っている。

・これに加え、社会福祉士による権利擁護事業（成年後見人制度や消費者被害の相談を受けて専門機関につなぐ相談支援）、主任ケアマネージャーによる包括的・継続的ケアマネジメント支援（地域のケアマネージャー等への支援）、保健師又は看護師による介護予防事業（サロンやカフェ等介護にならないで過ごすための支援）を行っており、住民の支援につながるよう、行政、介護保険事業所、地域の担い手とのハブ機能を担っている。

第5回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○みやうち地域包括支援センター活動紹介

・地域の方々が元気に暮らしていけるようサロンを運営しているが、参加者がお客さんで終わらないよう、参加者に担い手になってもらいたい。また、健康マージャンも今は自分達が運営しているが、参加者が主催してくれるようにしていきたいが、お客さんなら来るけど、開催はやっぱり…という方多い。

・やりたい人とやれそうな人がマッチングして包括では場所を貸すといった関わり方になり、多様な担い手が地域から出てほしいと考えて取り組んでおり、SDCが取り組もうとしていることと、活動趣旨は遠くないと思う。

第5回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○創出に向けた検討の流れ(案)

スモールスタートでまずやってみる取組を決める



取組を回していく運営の仕組みを決める



必要最低限のルール（どんな取組がSDCの取組と名乗れるか等）を決める



まずはスモールスタート！！

I. 中原SDCの目的/存在意義

①社会背景

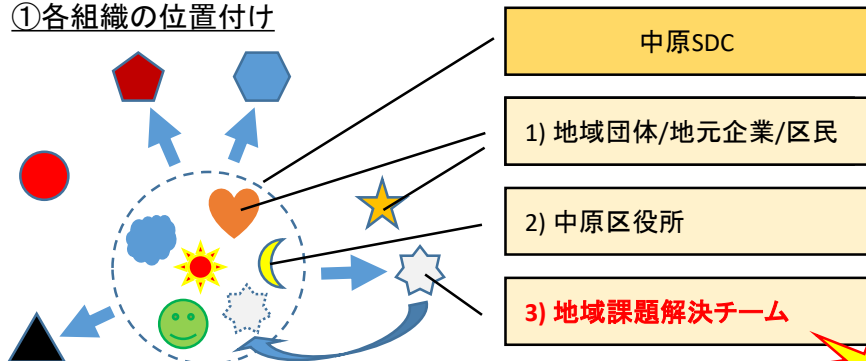
- ・価値観の多様化から従来の画一的な行政サービスが限界化
- ・超高齢社会、ポスト成長時代における豊かな生き方の模索

②目的/存在意義

- ・自分たちの町の課題は自分たちで解決する、の実現
 ~『知る・集う・つながる』をもっと効率化するための知恵やアイデアを持ち寄る
 それを実現するための新しい仕組みを創り出す
- ・多世代が関わり、寛容で親しみやすい組織

II. 中原SDCの体制

①各組織の位置付け



論点

②地域課題解決チーム

- ・中原SDCから生み出された、課題解決の仕組みを実現する主体
- ・中原SDC内で、a) 課題提起、b) 解決方針の刷り合せ、c) チームアップがなされれば活動開始
- ・現状は「なかはら盛り上げ隊」「超」ローカルかわら版

③中原SDCの活動内容

論点

- 1) “YORIAI”の実施(寄合い/燃り愛)
 - ・顔を合わせることでこそアイデアが生まれる
 - ・定期活動日を設定するものの、参加は任意・広く区内に告知(第一金曜・第三木曜など)
 - ・コンテンツ
 - a) 中間支援活動 勉強会
 中間支援団体(?)を招き、その取組と位置付けの理解を深める
 - b) 市民活動団体 交流会
 市民活動団体を招き、活動の紹介や告知を実施
 - c) 課題解決グループワーク(任意参加)
 市民活動をする中での困りごと、あったらいいなについてディスカッション
 - d) …
- 2) 地域課題解決チーム分科会
 - ・取り組みたい課題が共有できたチームは、個別に検討推進
 - ・区役所含む中原SDCメンバに随時相談可能
- 3) …

④運営体制

- ・事務局業務は最小限の業務とし、中原SDCメンバで持ち回り
- ・～YORIAIの各種手配や当日のファシリテーション
- ・区民への告知は、超かわら版を活用

論点

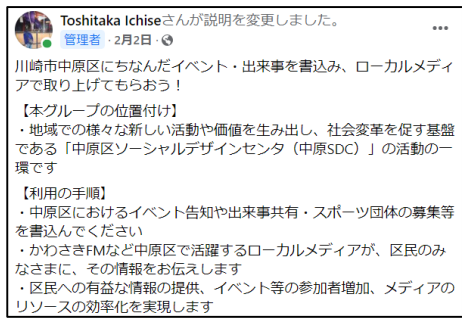
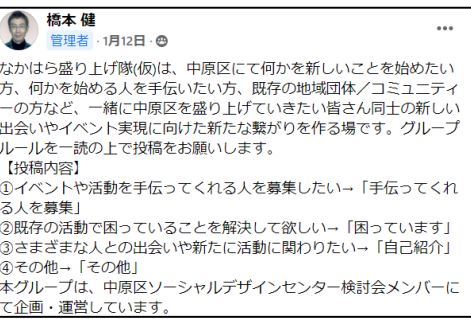
III. 活動場所

- ①主たる活動場所
 - ・リアル: 中原市民館、オンライン: Facebook(案)
- ②従たる活動場所
 - ・リアル: おおきな木ほか区内5地域に一つずつ設置
 - ・オンライン: Twitter、Instagram

IV. スケジュール感

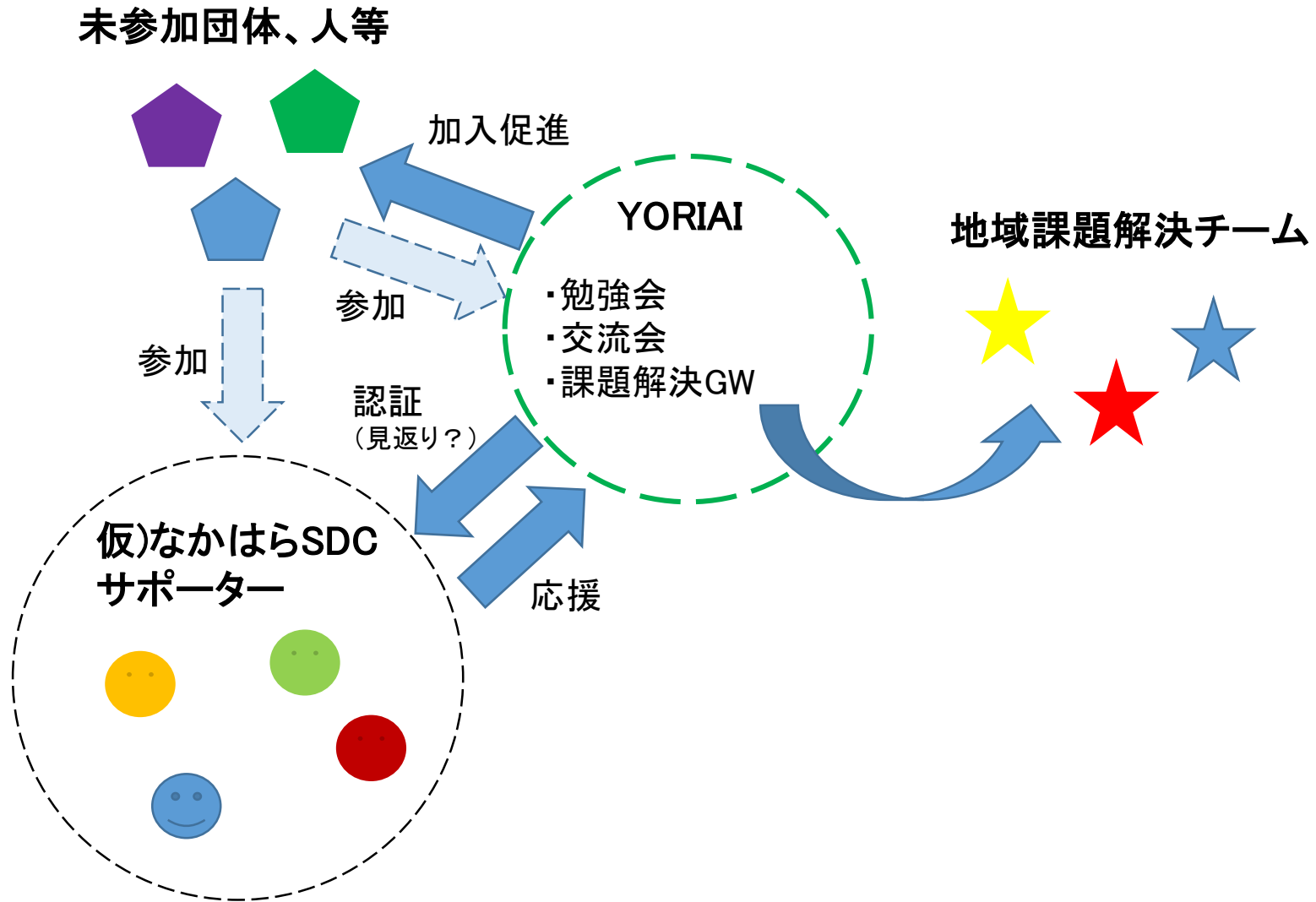
- 【2022/4(or 5)～】中原SDC設置宣言
- ・市民館確保、Facebook整備、広報開始(超かわら版)
- ・YORIAI準備開始、課題解決チーム組成(あと1-2チーム)
- 【2022/10～】中原SDC活動開始
- ・YORIAI_1st 開催

論点



第5回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○まずやってみる取組(中原区SDC企画案)について



第5回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○意見交換〈まずやってみる取組について〉【検討会ノート】

●意見交換

〈まずやってみる取組について〉

- ・YORIAIを行いながら地域活動解決チームを生み出す等の活動を行う形でスモールスタートできればと思うがどうか。
- ・(全員)異議なし
- ・その次の運営体制については、輪番で持ち回りでできるような形で行えればと思うがどうか。
- ・③活動内容まで賛成。運営体制となると反対。まだ早い。この場にいろんな人に参加してほしい。全包括・社協がまだ来ていない。麻生は全部来ている。他にも同じような活動をしている人達がいる。その勉強会を重ねるまでは区で事務局をしてほしい。
- ・社協や包括のセンター長会議にもこの取り組みに関して声かけはしている。活動の参加が広がっていければと思っているが、この場の趣旨として強制参加の場にはできない。いつまでも勉強会でスタートを切れないというジレンマもあると思う。

- ・今日の勉強と同じことを、区役所が関わらない形は難しいと思っているということか。
- ・言葉を選ばずに言うと、無責任かなと思っている。核となる人達との合意ができていない中でスタートするのがどうかと思う。税金で仕事をしている包括や市民活動センターの人達がSDCで有給で活動することもあり得る。税金で働く人達をサポートするのか、市民が主体的に動くのかをまだ相談できていないので、そこまでの調整を区役所が行ってほしい。
- ・事務局機能として、①対外的な事務局機能、②内部的な事務局機能がある。①を一市民が担うのは難しいかも。包括に呼び掛けする等対外的な部分を区役所が担ってもらえるとよいと思う。一方で、区役所が頼むと強制的な感じになってしまうが、積極的な気持ちで関わってもらえる方であれば、一区民が誘っても来てくれるとは思っている。そこにどう移行するかという問題があり悩ましい。
- ・区役所が事務局をやりたくないというわけではない。個人的には、仕事してお願いすると、委託業務の人工等課題があり法人の立場としては難しい部分もあるのではないかと思う。思いのある人が個人的に参加できるSDCの価値を生み出していきたい。

第5回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○意見交換<まずやってみる取組について>【検討会ノート】

- ・勉強会をする時のように、対外的な声掛けには当然区も関わる。SDCはあくまで市民活動であり、スタートは自由参加で、交流を通じて価値を深めていくことを目指している。まずはできるところから、やっていけないか。
- ・スモールスタートで全く問題なくスタートできると思う。私がイベントするとき、主催に入っていなくてもフェイストゥフェイスで協力をお願いすれば商店街や町内会は気持ちよく手伝ってくれる。組織は無数にある。やりたいことに応じて、そうした組織に声をかけ、つなぎ、実現する。区役所が声掛けをしないといけないということも全くない。
- ・企画したい人が参加者を募れたり、相談できたりするとよい。勉強会も大事だが、みんなが持っている知識を、時と場合に応じて共有していくのでいいのでは。興味があることに対してはみんな意欲的になり、勉強会や企画も自発的に生まれるのではないか。区役所が入ると顔色を見て遠慮してしまう部分もある。区役所の人個人として参加してもらえるとよい。
- ・包括に来ていただいたが、その立場の人にも一緒に検討してもらいたい。既存団体を巻き込んでいけないか。SDCができることで既存団体が浮いてしまう印象。それぞれの責任者が入ってディスカッションする場があってもよいのでは。

- ・とりあえず始めるのでも、一回関係者集めるのでも正直どちらでもよい。税金でまちづくりをやらなければいけない立場の人達から自分達はこまですてきますという話を聞いて、市民としてはこういうノウハウがあり、一緒にやっていきましょうかというまちづくりのベースがない中で運営始めてよいのか疑問。
- ・欠けている部分の認識はした上で、走れるところから走ってもよいと思うが、ただその部分は置いていかないでほしい。
- ・お試しでも具体的な取組を行い、SDCというものを具体的に説明できるようにして包括などに声かけをしていけたらと思う。まずは取組を進めていかないと、地域の仲間も増えないかもしれない。持ち回り等でプレでもスモールスタートしていけないか。もちろん区からのフォローもしていくので、そういう形で進められたらと思うがどうか。
- ・(全員)異議なし
- ・社会背景として、一番重要だと感じているが、価値観の多様化から従来の画一的行政サービスでは限界が来ている中で、SDCのような市民活動をこしらえられたらよいのかなと感じている。その中で、既存の団体を無視するのではなく、タイアップしていけたら。今日の包括の悩み事等を一緒に考えて、実績を積み重ねて価値を見出していくことが重要。YORAIをいつにするかは今後の話になるかと思っている。

第5回中原区SDC創出に向けた検討会開催結果

○意見交換<まずやってみる取組について>【検討会ノート】

- ・市民活動センターとして参加できるかどうかは、一度持ち帰って検討させてもらいたい。
- ・今後のスケジュール感。4~5月からお試して、勉強会や交流会、困り事を共有の辺りの検討から進めていければ。まずはこのぐらいの緩さでスタートできれば。
- ・包括は担い手探している。見に行っても対応してもらうのは難しい。業務が広がり過ぎて残業も多いし、昼間は走り回っている。やめておいたほうがいい。今回のSDCはすごいと思う。我々が最初にあげたやりたいことと包括などをマッチングできたら良い。初めは全員でやってみてリーダーを決めたらよい。そこには発信力がある区役所も入って。
- ・期限付きのスモールスタートに賛成。包括の話でもあったが、お客として参加するのはいいが、自分がやるのは...という思いは共感。一方この場に参加しているように何かできたらという思いとで揺れる思いがある。行政の限界を市民でカバーという話もあった(チャットで)が、自分に何ができるのかSDCをやりながら学び実現していきたい。それが参加者としての自己実現にもつながる。
- ・自己実現につながる取組にしていければ。すべての方が関わって良かったなと感じられるように。

- ・市と市民の協働の取組は20年程前から行われているが、行政がお膳立てをするものであった。今のこのやり方は、成功しても失敗しても素晴らしいと思う。中原区らしい。とは言え市民から見れば同じように見えて、注目されていくことになる。何がやりたいのかということ、今までの取組を踏まえて、私達が意識して説明していく責任と義務がある。事件は現場で起こっている。課題共有しながら試行錯誤してやっていく。体を動かすことが必要で、それを大切にしていきたい。今週末の井田山の会合で、SDCが始まること、SDCの方が興味を持っていることも説明したいと思う。
- ・地域の役に立ちたいので、できることをやりたい。前回紹介のあった井田山に行ってみて楽しかった。友達も誘っていきたい。「市民健康の森」の活動に関わっていきたい。